

# 中国における学校と社区との連携に関する研究

## － 思想道德教育に注目して－

賈 燕妮

### 1. 本研究の目的と課題

1980年代以後の改革開放政策の実施に伴い、中国は市場経済に移行し、経済の急速な発展とともに、人々の教育観も変化した。「文化大革命」以後の国家の教育政策では、いち早く重点学校の体系が整備された。教育が重視されるようになってきた一方で、都市部において、学歴社会化が進行した。その結果、一面的に進学率を追求し、学科知識の学習のみを重視する「応試教育」の下で、子どもたちは過重な学習負担に苦しみ、怠学、暴行、犯罪など様々な荒廃状況を生み出すこととなった。さらには、この荒廃状況は「一人っ子政策」と相まって、増幅された。1979年からの「一人っ子政策」により、現在一人っ子の家庭が一般的である。多くの子どもが親に過度に依存しており、日常生活能力や独自に問題を解決する能力がかなり欠如していると指摘されている。

以上のような青少年問題を解決するため、詰め込み形式の「応試教育」から「素質教育」への改革が中国の教育改革の方針として、中国の教育に大きな影響を与えている。1993年2月、中共中央・国務院による「中国教育改革及び発展綱要」では「小・中学校における基礎教育は応試教育という教育モデルから、国民の素質を高めるという教育モデルに移行していくべきである。全面的に児童生徒の思想道德、文化知識、科学技術、労働技能や身体・心理素質を向上させ、児童生徒の生き生きした発達を促す」と記された。その後今日まで、子どもたちの全面的な素質を高めることを目指す「素質教育」が積極的に取り組まれてきている。このような教育改革を円滑に実施するため、学校における改革が行われる一方で、学校と社区（コミュニティ）との連携という動向が注目される。

「素質教育」とは思想道德教育、知力教育、身体資質教育、美感教育、労働技能

教育の五つの内容により構成されている。その中で、思想道德教育は「素質教育」の重要な部分として強調されている。「応試教育」における「教え込み」の思想道德教育方法は、子どもたちに守らなければならない道德命令を出しているにすぎず、形式的な教育にとどまる。それゆえ、思想道德教育は学校だけに頼ってはできない。例えば、「私と社会」、「私と他人」という人間関係に関する内容は、子どもたちの日常生活と結びつけて教えられてこそ効果がある。生活の場面や人間関係の中で他人との協力や互いに助け合う精神を養い、他人を尊重することを実践させるのは重要だと考えられる。子どもたちは社区に住んでいるのだから、社区は子どもたちが育つ環境として重要である。

現在、中国各地で、特に都市で多様な学校と社区との連携の実践が行われている。しかしながら、学校と社区との連携における各地の実践はまだ模索の段階にあり、「連携」に関する実証的研究の蓄積も十分であるとはいえない。それゆえ、学校と社区との連携研究を進めるためには、実践事例にもとづいて実証的研究をすすめる、「連携」に関して理論的検討を行う必要があると考える。

そこで、本研究では、中国の「素質教育」改革を受けて展開されている思想道德教育における学校と社区との連携の現状をまとめ、青少年の全面的な素質を高めるために、社区側の視点から「連携」の形態を検討し、学校と社区との連携の役割を究明することを目的とする。具体的に、以下の三つの課題を設定する。

第1の課題は、改革開放を行っている現代中国社会の中で、急激に変動した都市部社会における青少年問題に焦点をあて、子どもの荒廃状況に対する教育改革として取り組まれている学校と社区との連携の必要性について考察をすることである。第2の課題は、1980年代以来の中国教育改革の政策を概観することで、学校と社区との連携による「素質教育」の促進及び思想道德教育の位置づけを解明することである。第3の課題は、思想道德教育を実践する際の学校と社区と有効な連携の方法と形態を究明することである。実践事例としては、天津市和平区の社区教師制度に着目する。

## 2. 論文の構成

### 序章 研究目的と方法

- 第1節 問題の所在
- 第2節 先行研究検討
- 第3節 研究課題と方法
- 第4節 論文の構成
- 第1章 現代中国における学校と社区との連携の必要性
  - 第1節 現代の青少年問題
  - 第2節 学校と社区との連携の必要性
- 第2章 「素質教育」の推進と学校と社区の連携
  - はじめに
  - 第1節 教育改革と「素質教育」
  - 第2節 学校と社区との連携による「素質教育」の推進方策
  - 第3節 「素質教育」における思想道德教育の位置づけ
- 第3章 学校と社区との連携による思想道德教育の実践事例
  - 第1節 思想道德教育における学校と社区との連携の形態
  - 第2節 学校と社区との連携による天津市和平区の事例
  - 第3節 社区教師による学校と社区との連携活動
- 第4章 学校と社区との連携における社区教師制度の意義と課題
  - 第1節 社区教師制度の役割
  - 第2節 社区教師制度の課題
- 終章 まとめと今後の課題
  - 第1節 総括
  - 第2節 今後の課題と展望

### 3. 論文の概要

第1章では、中国社会の変動によって出現した新しい青少年問題を解決するため、学校と社区との連携の必要性を考察した。

1978年に改革開放政策が策定されたことで、中国では「文化大革命」という「政治の時代」は終わり、「市場経済時代」に大きく転換した。急速な社会変動に伴い、特に1990年代以降に生じた中国都市の青少年問題を把握するため、中国の

学術理論誌『中国青年研究』（1989年1月－2008年1月）に掲載された青少年問題に関する58本の論文内容を概括的にとらえた。同誌に掲載された論文の分析により、現代中国社会の主な青少年問題は青少年犯罪、非行、心理問題であることが明らかになった。また、情報化の発展とコンピューターの普及により、インターネット中毒問題が21世紀の新しい青少年問題として指摘された。さらに、58本の論文は「応試教育」の弊害と「一人っ子政策」がもたらした勉強中心で親による過保護という家庭教育の弊害を青少年問題の根源として共通に指摘していた。

このような時代背景の下で、家庭、社会の諸問題が絡み合った青少年問題に対して、本研究では「知識中心」・「教科書中心」・「教室中心」という閉鎖的学校教育の限界性を明らかにした。そして、学校教育、社区教育（社区住民全体の素質と生活の質を高める教育活動）及び終身教育（日本の生涯教育に相当する）の3つの視点にたつて、学校と社区との連携の必要性を考察した。

第2章では、「素質教育」改革を概観した上で、思想道德教育における学校と社区との連携活動はどのように位置づけられているのかを分析した。

1980年代、「文化大革命」で破壊された学校教育を再建するため、中国政府はエリート育成体制を立ち上げた。これは、子どもに「基本知識」と「基本技能」を身に付けさせる一方で、過酷な進学競争による弊害をもたらした。知識に偏った「応試教育」の弊害を是正するため、1990年代から「素質教育」改革が積極的に行われてきた。青少年の「素質教育」の中でも、思想道德教育は重要な位置づけにある。1980年代の教育体制改革や、1990年代の改革开放政策に基づく急速な社会変動の中でも、中共中央及び中国政府の思想道德教育を重視する姿勢は一貫して堅持されており、21世紀に入って強化される方向にあるといえる。「応試教育」において、知力を重視し、徳育を軽視する「重知軽徳」という傾向を改善するため、国家は学校と家庭と社会が連携して思想道德教育を推進するという方策を出した。そこでは、学校と社区との連携により、社区での多様な実践活動を通じて、子どもの良好な道徳品質を形成することで、「素質教育」を促進することが期待されていることが明らかになった。

第3章では、中国における学校と社区との連携の形態を考察したうえで、天津市和平区の社区教師制度による学校と社区との連携に焦点を絞り、実践事例研究

を行った。

現在、中国都市で多様な学校と社区との連携の実践が行われている。各地では、「連携」に対する言い方も多様であり、例えば「互動」、「一体化」、「学社教育合作」などと言われている。本研究では、「連携」活動の実施主体に着目して、学校と社区との連携の形態を「社区教育委員会主導による学校と社区との連携」、「政府機関等主導による学校と社区との連携」、「学校教育主導による学校と社区との連携」、「社区教師主導による学校と社区との連携」といった4種類にまとめた。その上で、青少年教育に着目して、社区教師制度を調査対象として、天津市和平区の社区教師による「連携」形態を検討した。2001年に、和平区教育局は和平区の未成年者思想道德教育建設を推進し、未成年者の心身発達に良い影響を及ぼす社会環境をつくるため、全区の幼稚園と小中学校から、優秀教師を選抜し、各社区居民委員会（中国都市社会の最も下部の住民組織）に派遣してきた。

本章では、天津市和平区の60ヶ所の社区において、学校と社区との連携活動を量的に分析した。その結果、社区教師による「連携」活動はモラル教育、愛国教育、健康教育、心の健康に関する教育、国際教育、環境教育、法制教育、情報モラル教育、安全教育、文芸教育、家庭教育、奉仕教育といった12の側面から、思想道德教育が促進されたことを明らかにした。さらに、個別事例として南営門街天興里社区、南営門街西寧道社区、体育館街友誼里社区の3つの社区をとりあげ、社区居民委員会レベルの「連携」活動の内容を検討した。

第4章では、和平区の思想道德教育における学校と社区との連携活動の事例研究（第3章）によって解明したことをもとに、「素質教育」の推進に果たしている社区教師制度の意義を明らかにした。

結論として、学校と社区とのつながりをつくった社区教師の役割は大きく4つに分類することができた。すなわち、①学校の教育機能を補足すること、②学校外教育の機能を発揮すること、③「応試教育」に慣れた親の意識を転換すること、④福祉的な機能を担っていること、である。

そして、それら4つの機能によって、社区教師は社会体験活動を行うことで、モラル教育や愛国教育、心の健康に関する教育を通じて、子どもの自主性と社会性を育成していることを明らかにした。したがって、社区教師における学校と社

区との連携は思想道徳教育、そして「素質教育」を推進するひとつの仕法として意義があると結論づけた。

#### 4. 今後の課題

本研究の事例研究では、学校と区との連携のコーディネートの役割を果たしている区教師の視点にたつて、学校と区との連携活動を中心に捉えた。しかしながら、「連携」活動に参加している子どもたちにどのような変化が生じているのか。「連携」活動を支援している区の地域住民たちはどのような意識を持っているのか。また、区教師制度は交代制であり、教育局は教師を区に派遣し、教師たちは1年後に学校に戻る。区での仕事経験がある教師は、学校に戻った後の教え方や、教育理念について、どのような変化が見られるのか。これらの問題は本研究で触れることができなかった。天津市和平区をフィールドとして、区の子ども、地域住民及び学校に戻った教師に対する意識調査を実施することで、この課題を究明したい。

また、本研究は思想道徳教育に重点をおいて、中国における学校と区との連携の現状を考察した。しかし、「素質教育」の内容には、思想道徳教育のほかに、「知力教育」、「身体資質教育」、「美感教育」、「労働技能教育」の四つの内容があるが、これらについては触れていない。本研究では取り上げることができなかった内容について研究を行い、中国における学校と区との連携の全体像を究明することを今後の課題としたい。その際、日本の学社連携の現状を視野にいれて考察したいと考える。

#### 5. 主要参考文献

- ・ 吳遵民『現代中国終身教育論』、上海教育出版社、2003年。
- ・ 劉淑蘭『学校と社区的互動』、四川教育出版社、2003年。
- ・ 牧野篤『中国變動社会の教育—流動化する個人と市場主義への対応—』、勁草書房、2006年。
- ・ 謝祥清、楊曼英『素質教育教程』、湖南師範大学出版社、2007年。